

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：27301

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K19503

研究課題名（和文）看護学士課程における地域志向型ケアを内包したコンピテンシー学修成果指標の開発

研究課題名（英文）Development of Competency Learning Outcome Indicators Inclusive of Community Oriented Care in a Bachelor's Program in Nursing

研究代表者

坂本 仁美（SAKAMOTO, Hitomi）

長崎県立大学・看護栄養学部・講師

研究者番号：30574339

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000 円

研究成果の概要（和文）：Competency-based Educationの実践に向けた地域包括ケアにおける看護の役割の明確化として、51文献から209コード、10カテゴリを抽出し「多職種と連携したうえで、生活に基軸を置いた包括的な視点からの療養支援と看護体制の構築」であると定義づけた。さらに、役割理論に基づき、地域包括ケアシステムにおける看護師への役割期待の構成要素について、《患者を包括的にとらえその人権を尊重するとともに、患者が希望する生活を継続できるよう支援体制を構築する》、《患者に必要な支援がいきわたるようにあらゆる事態を想定し支援のコーディネートをする》、《患者が必要とする看護ケアを実施する》を抽出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、本質的に曖昧であり概念が不明確であった「地域包括ケアにおいて看護の役割」について、概念分析を行いその属性を明らかにするとともに、役割理論に基づき、役割観念、社会的規範から役割期待を明確化した。これらの成果は、コンピテンシーのもととなる役割行動を具現化できるものであり、成果指標として実行可能な学習成果指標の開発につなげることができると思う。

研究成果の概要（英文）：To clarify the role of nursing in comprehensive community care for the practice of Competency-based Education, 209 codes and 10 categories were extracted from 51 references, and defined as “the construction of medical care support and nursing systems from a comprehensive perspective based on daily life, in collaboration with multiple professions. Furthermore, based on the role theory, the components of the role expectations for nurses in a comprehensive community care system are as follows: “to comprehensively view patients and respect their human rights, while building a support system to enable patients to continue living the life they desire,” “to assume all possible situations and coordinate support so that patients receive the support they need,” and “to provide support to patients in a manner that is appropriate for their needs. Coordination of support for patients to ensure that they receive the support they need,” and “Provide the nursing care they need.”

研究分野：基礎看護学

キーワード：地域包括ケア 役割理論 看護師 コンピテンシー

1. 研究開始当初の背景

急速に高齢化が進む我が国の保健医療福祉分野では、在宅支援のニーズが今後ますます高まることが予測されており、地域の自主性や特性に応じた地域包括ケアシステムの実現が急がれている。介護保険事業計画で地域包括ケアシステムの構築に関する基本理念を定めた自治体は1,150(72.8%)に上り、地域包括ケアシステムの構築をめぐる社会的な認識や検討すべき課題も大きく進展している。その中でも、看護師は、多様かつ複雑な患者の医療・生活ニーズに寄り添い、多職種と連携しながら患者のケアを中心的に担うとともに、補助的な医行為を行うなどして医師の補完的役割を担い、今後の我が国の医療では極めて大きな役割を担い得る職種であるといわれている¹⁾。

このような、社会に求められる看護を実現するために、看護学学士課程において、コアとなる看護実践能力の修得を目指した学修目標を提示した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が平成29年10月に公表され、基盤となる能力を培う看護基礎教育が注目されている。「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」では、「地域包括ケアにおける看護実践」が項目立てされており、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々を対象に、多職種と連携し、「地域包括ケアにおいて看護の役割を発揮する能力」を身につけることをねらいとしている。さらに、平成30年6月に日本看護系大学協議会から看護学学士教育の質保証を目的として「看護学学士課程教育におけるコンピテンシーと卒業時到達目標」が改訂公表され、保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力の項において「地域包括ケアを推進する必要性を理解し、地域包括ケアの中の看護の役割と機能について説明できる」を卒業時の到達目標として明言化している。つまり、看護学学士課程における地域包括ケアの教育は、アドバンスのカリキュラムではなく、コンピテンシーに基づき学修成果を設定し、体系を意識して教育課程を編成・実施する必要がある。

2. 研究の目的

研究代表者は、これまでに「次世代型地域包括ケアを先導する看護学教育確立の為のニーズ解析とカリキュラム開発」を研究テーマに、地域において多職種協働の実践ができる人材の育成に向けた研究を実施してきたが、「地域包括ケアにおいて看護の役割を発揮する能力」の抽象度が高く、構成要素が曖昧であることが明らかとなった。そこで、本研究では、「地域包括ケアにおいて看護の役割」について、概念分析の手法を用い定義と属性、要素と構造を明らかにする。また、地域志向型ケアの側面から役割理論に基づき、地域包括ケアシステムにおける看護師への役割期待の構成要素を検討する。この成果は、地域包括ケアのコンピテンシーモデル作成につながる可以考虑。

3. 研究の方法

【第1段階】

地域包括ケアにおいて看護の役割

文献データベースとして医学中央雑誌 web 版を用いた。シソーラスを参照し、「地域包括ケア」の統制語である「地域包括ケアシステム」と、「看護の役割」の統制語である「看護職の役割」、また「看護師の役割」をそれぞれ AND 検索した。統合的文献レビューにおいて Cooper²⁾は、文献の対象として学術雑誌に限らず、記事、個人的な対話までを含むとしていることから、原著論文に限らず検索を行った。検索期間は、介護保険法における「地域包括ケア」に係る理念規定が創設された2011年から、最新(2019年8月)までとし、絞り込み条件を看護に限定して検索した。収集した文献に対して、統合的文献レビューの手順に従い、リサーチクエスチョンを「地域包括ケアにおける看護の役割とは何か」、「地域包括ケアにおける看護師はどのような職務の場にいるか」として、関連する記述をコードとして抽出し、得られたコードをサブカテゴリ、さらにカテゴリに集約した。

【第2段階】

地域包括ケアシステムにおける看護師への役割期待の構成要素の検討

役割理論に基づき、役割期待の構成要素を明らかにする。

調査対象

対象は、地域ケア会議運営マニュアルに掲載されている会議構成員の中でも、地域ケア個別会議に主に参加している介護支援専門員、保健医療関係者(保健師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、薬剤師、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士等)また地域包括支援センターに所属する職員とした。なお、対象施設として、地域ケア会議の主催者であり、地域包括ケアを支える中核拠点として設置されている地域包括支援センターとした。地域包括支援センターの職員総数が不明であることから、母集団を全国地域包括支援センター数5,041件とし、信頼性係数を95%、許容誤差を5%、母比率を20%として導き出されたサンプルサイズ246件を確保するため、層化無作為抽出法を用いて1,200件に配布した。また、看護師免許を持った介護支援専門員や複数の資格所有者は、看護師として従事していない場合に限り調査対象とした。

調査方法

抽出した 1,200 施設の管理者宛に研究協力を依頼し、回答書により協力の可否とアンケート調査用紙発送先および発送部数を確認した。回答書により協力の得られた 322 件 423 名の所属機関の担当者に対してアンケート調査用紙と Google フォームのアドレスを記載した依頼用紙を郵送した。

調査内容

1) 対象者の個人属性

対象者の属性として、年齢、所属の地域包括支援センターの所在地、地域包括ケアシステムに関する職場での勤務年数、保有資格について調査した。

2) 地域包括ケアシステムにおける看護師に対する役割期待

地域包括ケアシステムにおける看護師に対する役割期待を明らかにするために、役割観念として地域包括ケアにおける看護の役割に関する分析を行い、さらに、社会的規範として新聞記事を分析対象とし、KH-coder を用いて計量分析を行った。その結果、明らかとなった役割観念の 10 カテゴリーから 39 項目、計量分析により得られた社会的規範 役割拡大のための高度専門職養成教育の充足、住み慣れた自宅や高齢者施設で生活を継続するための支援、介護事業サービスのシステム構築に向けた連携の促進、人手不足解消と多様なニーズに対応できる人材の育成、在宅医療推進のための体制充実、急性期医療の在宅復帰機能の強化の 6 つのコンセプトから 22 項目を作成した。これら全 61 項目の役割期待案について、地域包括ケアに携わった経験のある実務家教員 3 名および研究代表者にて項目の精選を行い、質問内容が重複している項目、看護管理者のみに特化した項目を削除し、さらに文章表現の修正を行い、全 55 項目で構成する質問項目案を作成した。

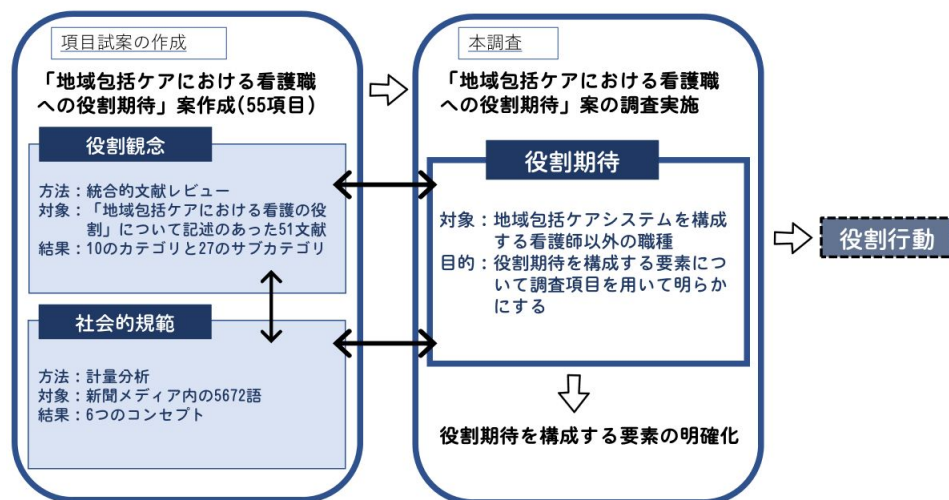


図1 本研究の枠組み(役割理論を基盤に作成)

4. 研究成果

【第1段階】

Competency-based Education の実践に向けて地域包括ケアにおける看護の役割を明確化することを目的として、医学中央雑誌 web 版から「地域包括ケア」、「看護の役割」を検索語として 51 文献を収集した。得られた文献から「地域包括ケアにおける看護の役割とは何か」、および「地域包括ケアにおける看護師はどのような職務の場にいるか」をリサーチクエスションとして 209 コードを抽出し、それらを「多職種連携と他職種支援」「地域のエンパワメント支援」「在宅療養者の健康増進と疾病・介護予防」「看護師の質の向上」「看護体制を整備し看護の継続を目指した看く連携」「在宅療養者に必要なサービスのマネジメント」「在宅療養者の人権を尊重した自己決定支援」「在宅療養者とその家族のニーズを把握し必要な看護を提供」「生活に基軸を置いた包括的な視点からの療養生活における自立支援」「在宅療養が継続できるように診療の補助行為も含めた看護ケアを提供」という 10 個のカテゴリーに集約した。以上より、地域包括ケアにおける看護の役割とは、「多職種と連携したうえで、生活に基軸を置いた包括的な視点からの療養支援と看護体制の構築」であると結論した。

【第2段階】

原案 55 項目の尺度案を分析したところ、因子分析の結果から、3 因子構造をそれぞれ、第 1 因子《患者を包括的にとらえその人権を尊重するとともに、患者が希望する生活を継続できるよう支援体制を構築する》、第 2 因子《患者に必要な支援がいきわたるようあらゆる事態を想定し支援のコーディネートをする》、第 3 因子《患者が必要とする看護ケアを実施する》と命名した。以上の結果から、36 項目の構成要素を有する 3 因子の役割期待が抽出された。

抽出された 3 つの役割期待に注目すると、因子 2《患者に必要な支援がいきわたるようあらゆる事態を想定し支援のコーディネートをする》において期待度と実践度に有意な差が認められた。地域をフィールドとする多職種連携を可能にするには、医療情報を在宅医療関係者間で共

有できる IT システム等ハード面の充実が欠かせない³⁾とされている。また、令和 4 年度の診療報酬改定では、医療情報の標準化、ICT の活用等を通じて医療連携の取組を進めるとともに、医療の質を向上させるため、データを収集・活用したエビデンスに基づく評価を推進することが不可欠であるとされており、在宅での測定データをオンラインで活用したり、在宅療養者の IT ネットワークを使用したモニタリング等、遠隔医療の導入に尽力する、IT 機器を適切に扱い、多職種チーム内での情報共有をリアルタイムで行うことは、看護の役割として期待されている。また、我が国の介護保険制度におけるケアマネジャーは、介護サービスの組み合わせと給付管理だけを行うことを前提として制度化されたため、利用者の病気を理解し、複雑な社会保障制度を利用しながら多様な社会資源をマネジメントするという業務は、当初から想定されていたものではなかった⁴⁾。そこで、〈医療・看護ケア・法制度等について最新の知見を得、チーム内に還元する、介護予防の視点をもつとともに、在宅療養者の介護度の変更について必要時ケアマネジャーに進言する、予めリスクを想定したり、今後、療養者に起こるであろう心身の変化を予測する〉ことは医療職である看護師が期待されるに十分である。

因子 1《患者を包括的にとらえその人権を尊重するとともに、患者が希望する生活を継続できるよう支援体制を構築する》は、他の因子に比し効果量は低い値となった。吾妻ら⁵⁾は、多職種の自己の専門性への固執が他のメンバーとの意見の対立を招き、連携・協働していくことを阻害することを指摘している。今回の結果により、支援体制の構築にはチーム医療の円滑な推進の重要性が再確認されたとともに、チーム医療の根本である互いの役割理解と職種を尊重した態度を示すことが可能となってきたことが示唆された。これらのことは、メディカルスタッフの専門性の向上と職務満足の向上にもつながることが期待されている。また、有意差が認められたものの、様々な状況により代弁者となる際も、療養者の人権尊重につとめ、療養者の意思を曲解することなく他者に伝える、在宅療養者とその家族が最善の選択ができるように情報提供し、意思決定を支援するは低い効果量を示しており、項目得点がいずれも高い値を示している。これは、実践度より期待度が有意に高いものの、期待したレベルに実践度が迫っていると判断される。瀬沼ら⁶⁾によると治療期の高齢がん患者の意思決定において家族は「患者の意思を尊重しつつ家族にとっても最善の選択をしたい」という思いを抱えていることを挙げており、今回の結果と照らし合わせても療養者とその家族の意思決定支援は看護師の役割として重要であることが示唆される。持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律(2013 年 12 月 13 日号外法律第 112 号)において、患者個人の尊厳や意思がより尊重されるよう法整備がされたものの、岡本⁷⁾によると延命処置の可否に関わらず 2 割程度の看護職が高齢患者の終末期意思を尊重しないとすると認識しており、自分の意思に応じた最期を迎えていない高齢患者が存在していると指摘している。地域包括ケアシステムにおいて、病院から在宅、施設等、看護が途切れることなく、療養できるように環境、看護体制を整えることは、終末期への支援にも重要な役割を果たし、これらの支援体制の構築が在宅療養の環境調整を容易にし、患者の意思決定の支援に寄与すると考えられる。

因子 3《患者が必要とする看護ケアを実施する》では、地域包括ケアに特化した具体的看護ケアが集約された。在宅療養における衛生材料等の供給体制の整備は、平成 28 年度診療報酬改定において加算対象となったが、これまで十分な医療・衛生材料が供給されていないことが指摘されている⁸⁾。衛生材料の供給も「医行為を施行する生活環境を整えるケア」の 1 つとして看護の役割に位置付けられている⁹⁾ことから、今回の結果においても療養上必要な衛生材料について訪問看護報告書等に記載し、在宅療養者が過不足なく使用できるように医師に依頼の上、手配するといった役割が期待されていた。また、在宅医療では生活の質の向上が志向されるが医療職は疾患の治療を優先しがち¹⁰⁾と指摘される中で、今回の結果では医療ケアを確実に実施し、

状態の変化をモニタリングし、急変時や緊急時に対応し直接的ケアを行うなどの《患者が必要とする看護ケアを実施する》ことを期待されていた。患者の人生観や家族の意向、療養環境、社会背景なども勘案して医療ケアを提供するためには、在宅は圧倒的に情報を入手しやすく、患者中心の医療ケア提供に適した場所である¹¹⁾。このことから、看護師は医療を担う、生活をみると視点を变えるのではなく、実際の生活に即しながら医療面と生活面をバランスよく、また包括的、継続的に支援することが地域包括ケアシステムの実現に向けて重要であることが示唆された。

<引用文献>

1 厚生労働省(2017): 新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書。

2) Cooper, H. M. (2016): Research Synthesis and Meta-Analysis: A step-by-step approach, SAGE publications, Inc.

3) 永田康浩(2020): 地域包括ケアシステムにおける医療のこれから, 日内会誌, 109(3), 540-544.

4) 筒井孝子(2014): 地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略, 中央法規出版, 東京

5) 吾妻知美, 神谷美紀子, 岡崎美晴, & 遠藤圭子. (2013). チーム医療に関わる看護師が感じる連携・協働の困難. 甲南女子大学研究紀要. 看護学・リハビリテーション学編, (7), 23-33.

6) 瀬沼麻衣子, 手塚明星, 塚越徳子, 他(2022): 治療期の高齢がん患者の意思決定における家

族の思いに関する文献レビュー，群馬保健学研究，42，32-41．

7) 岡本あゆみ(2015)：終末期にある高齢患者の意思の尊重について-東京都の病院看護職への質問紙調査の分析から-，日看倫理会誌，7(1)，54-67．

8) 前田修子，山下奈津子(2017)：訪問看護におけるリスクマネジメント 療養者・家族・医療者の安全をどう確保するか，看技，63(5)，492-498．

9) 鈴木浩子，佐藤千津代，富田真佐子，他(2021)：訪問看護において医行為に伴い実践する「生活モデル」に基づく看護，昭和学会誌，81(5)，459-468．

10) 石橋幸慈(2016)：在宅医療における多職種連携・協働を成功させるために，病院，75(4)，274-279．

11) 川越正平(2014)：在宅医療の現状と課題，日内会誌，103(12)，3106-3117．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 坂本 仁美	4. 巻 32
2. 論文標題 Competency-based Educationのための地域包括ケアにおける看護の役割に関する統合的文献レビュー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本健康医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 42～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20685/kenkouigaku.32.1_42	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 坂本仁美
2. 発表標題 地域包括ケアにおける看護師に期待される役割遂行能力
3. 学会等名 第47回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本仁美
2. 発表標題 地域包括ケアで活躍する看護師に対する期待度と実践度 役割理論を用いて
3. 学会等名 第11回日本在宅看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本仁美
2. 発表標題 CBE実践に向けた「地域包括ケアにおける看護の役割」に関する文献レビュー
3. 学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本仁美
2. 発表標題 基礎看護教育課程における早期体験学習の現状と課題 次世代型地域包括ケアのカリキュラム開発に向けて
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------